

日本学術会議 地域研究委員会・地球惑星科学研究委員会合同  
地理教育分科会 地誌・国際理解教育小委員会（第25期 第1回）議事要旨

日時：令和3年5月23日（日）14:00～15:00

場所：オンライン会議（Zoom 使用）

出席者：松原 宏，井口 梓，池口明子，岡橋秀典，中澤高志，氷見山幸夫，水内俊雄，  
宮町良広，山川充夫，山崎孝史，横山 智

欠席者：杉本良男，谷口真人，森本 泉，由井義通

### 議事

1. 第25期の役員を選出を行い，以下の通り決定した。

委員長：中澤高志，副委員長：池口明子，幹事：岡橋秀典

2. 第24期の総括

第24期に委員長を務めた岡橋委員が，これまでの議論の経緯と今後の課題について報告した。

3. 第25期の活動方針

第25期中澤委員長から，今後の議論のために，地理教科書の地誌的内容に関わっていくつかの論点提示がなされた。それを踏まえ，小委員会では，専門的な見地から，教科書において使われている概念の妥当性について話をしてもらい，意見交換することが考えられるのではないかとの提案がなされた。

続いて委員による意見交換を行った。主なものは以下の通り。

- ・ 文化人類学には学術会議の中でも高校の教科に足場を持つとする動きがあり，特に地理総合へのアプローチがみられる。新しい教科である地理総合を定着させるには，文化人類学との協力体制を築くことが必要である。
- ・ 中学校社会の教科書について地理的分野の内容を検討したことがあるが，記述の正確さという点で問題が少なくない。
- ・ マイナーな国の扱いについては，オセアニア州の例でもオーストラリアが中心で，せいぜいニュージーランドが加わる程度であり，ニューギニアは扱われない。それではオーストラリアの先住民の広がりが理解できない。ただ，授業時間のない中でどのように教えるかという難しい問題がある。

以上